



採用7年目（H25.4月採用）高卒男性

私は、平成25年4月、鹿児島地方検察庁に採用された後、犯歴探証担当、徴収担当、検察官の立会事務官、支部勤務、総務課庶務係・人事係を経て、現在は、会計課主計係で主に国の歳入や歳出に関する手続を担当しています。

【検察庁に入庁した理由】

私が検察庁に入庁したのは、第一次試験合格後に行った検察庁への官庁訪問がきっかけでした。それまで私は、検察庁に関する知識は全くありませんでしたが、官庁訪問した際に人事担当者からの説明を聞き、検察庁は、発生した事件の真相解明のため、罪を犯した人やその関係者と真摯に向き合い、国の平和のために、罪を犯した人を適正に処罰し、その後の更生のためのケアも行っている、重要かつやりがいのある国家機関であることが分かりました。

当時、マンツーマンで説明をしてくれた検察庁の人事担当者が、検察庁のことについて分かりやすく丁寧に教えてくださり、質問にも笑顔で優しく答えてくださったので、そのような上司、先輩がいる検察庁で働きたいと思ったのも検察事務官を志望したきっかけの一つでした。

【大卒で入庁した職員との関係・法律的知識を習得する環境について】

検察事務官には、私のように高卒で入庁した職員もいれば、大卒で入庁した職員もいます。実際に、私と同期で入庁した職員の中には大卒の職員もいます。

大卒で入庁した職員は、大学で法学部に所属していた人もいることから、入庁前から法律的知識をある程度持っており、私のように何の知識もない高卒者が同時に入庁したら、差が出てしまうのではないかと思うかもしれませんが、そのような心配をする必要は全くありません。

確かに、高卒と大卒ですから初任給に差はありますが、それ以外の待遇については、高卒、大卒分け隔てなく、力を発揮できる環境があり、同じように成長していくことができます。

法律的知識が全くなくても、そばにいる上司や先輩が丁寧に教えてくれますし、入庁して間もなく、法律的知識を習得するための研修（1か月程度）に参加することができますので、その機会に十分勉強することができます。

【鹿児島地検の雰囲気】

検察庁は、法律を扱うことから、真面目で厳しく、全体的に暗いイメージを持つ方もいるかもしれませんが、実際はその逆です。とても明るい職場で、オンとオフの切替えがしっかりとできていて、職員同士の仲も親密かつ良好であり、毎日楽しく仕事ができています。

このように感じたエピソードを一つお話ししますと、私が入庁して1年目に二十歳の誕生日を迎えたとき、当時所属していた部署の上司・先輩、同期がサプライズで誕生日をお祝いしてくれました。

検察庁にこのようなアットホームな一面があると思っていなかった私は、びっくりしましたし、当時、親元を離れて一人暮らしをしていたこともあり、とても嬉しいサプライズで、検察庁に入庁して本当に良かったと思いました。

【国家公務員採用一般職試験受験者へのメッセージ】

ここに書いたことは、あくまでも検察庁の魅力の一部に過ぎません。

少しでも検察庁に興味があれば、是非、官庁訪問という形で鹿児島地検にお越しください。

皆さんのこの先何十年もある人生の進路の選択肢の一つとして、鹿児島地検を選んでいただけると幸いです。

【令和元年10月掲載】